

平成27年度 第2回図書館セミナー開催しました

医学図書館は、平成28年3月7日（月）15：30-17：00 アレスコ棟211講義室で中根裕信先生（医学科解剖学）を講師に図書館セミナー「物語」を開催しました。

まず、先生は冒頭で、大国の政治家の病気が悪化したことが、その後の世界情勢に大きく影響を与えた可能性があるという「物語」を話され、参加者は興味深く耳を傾けました。

次に、日本とかかわりの深い印象派の画家モネの目の病気と作品について話されました。モネは27歳頃にすでに白内障の症状があったといわれていますが、83歳になるまで手術を受けませんでした。モネは、若い頃から白内障の初期症状のため、通常よりも光をまぶしく感じていたと思われるのですが、普通の人以上に屋外の太陽光の変化を敏感かつ繊細に自らの独特の感性でとらえ、その光の変化を絶妙に描き出す表現力により数々の名作を生み出した可能性があるとのことでした。また、先生はモネの作品の一部を拡大され、モネが実際描いた対象の実物写真とモネの描いた作品を比較して、色彩や表現の違いを、参加者にわかりやすく説明されました。参加者は、今まで知っていたモネの作品の違った一面に驚きを感じました。また、モネの睡蓮の連作は、描かれた時期により、色彩の表現などから病気の進行状態などを反映している可能性があるとのことでした。作品集などで確認してみてもほしいとも話されました。

最後に、これから医療現場で患者さんと接する機会のある学生さんは、より多くの教養と豊富な話題を身につける必要があるため、図書館の資料で様々な知識を得る機会を多く持つてほしいと話されました。

参加者からは、「医療（医学）と芸術がどのように結びつくのかと思ったが大変面白く興味深かったです。」「機会があればまた参加したいです。」という感想をいただき、興味を持つきっかけとなったようです。

医学図書館では、多くの学生さんに医学の基礎となる人体についてより理解を深めていただき幅広い教養を身に付けていただく機会になるよう、今後もこのような企画を計画していきます。

参考図書：「歴史の主役はみな病人」久次米義敬(主婦の友社)



今年度 骨格模型と肩関節模型が入りました



骨格模型で肩関節の説明をされる先生（右手前が肩関節模型）

医学図書館では常時人体模型等の展示・貸出を行っています。
ご来館いただき実際に見て・触って学習にお役立てください。